

建築照明探検隊

—空間と照明のデザイナー—

第3回 照明で「体験」を喚起する

クライン ダイサム
アーキテクト

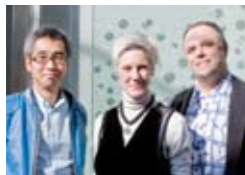
× 鈴野浩一
中村竜治
成瀬友梨

VERTU GINZA FLAGSHIP STORE
TBWA\HAKUHODO

設計：クライン ダイサム アーキテクト

企画趣旨

若手建築家3人が、設計者から作品と照明の解説を受けながら、建築と照明の関係を探っていく連載の第3回。今回はクライン ダイサム アーキテクトによる作品を取り上げます。
ラグジュアリー・モバイルフォン・ショップ「VERTU GINZA FLAGSHIP STORE」ではラグジュアリーなイメージを保ちながら照明によってハンドセットを引き立たせ、ボーリング場からオフィスへのコンバージョンを行った広告会社「TBWA\HAKUHODO」では屋外を感じられる光の下で創造性が発揮できるようなオフィスが目指されました。
今回登場いただいた若手建築家は、いずれも商業施設の設計を経験したことがある3名。自身の経験も交えながら、照明を扱う難しさなどについて語ってもらいました。(編)



クライン ダイサム アーキテクト

ロイヤル・カレッジ・オブ・アートを修了し、伊東豊雄建築設計事務所での経験を積んだアストリッド・クライン(中央)とマーク・ダイサム(右)によって1991年に設立される。建築設計をはじめインテリアからプロダクト、アートイベントからスペースの運営まで何ごとにも境界線を引くことなく活動するオフィス。久山幸成(ひさやま・ゆきなり、左)は初期からのメンバー。

1973年神奈川県生まれ／1996年東京理科大学工学部建築学科卒業／1998年横浜国立大学大学院修士課程修了／シーラカンズK&H、オーストラリア・メルボルンの事務所勤務を経て、2004年トラフ建築設計事務所共同設立／2008年～昭和女子大学非常勤講師



鈴野浩一(すずの・こういち)

1973年神奈川県生まれ／1996年東京理科大学工学部建築学科卒業／1998年横浜国立大学大学院修士課程修了／シーラカンズK&H、オーストラリア・メルボルンの事務所勤務を経て、2004年トラフ建築設計事務所共同設立／2008年～昭和女子大学非常勤講師



中村竜治(なかむら・りゅうじ)

1972年長野県生まれ／1999年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了／2000～03年青木淳建築計画事務所／2004年中村竜治建築設計事務所設立



成瀬友梨(なるせ・ゆり)

1979年愛知県生まれ／2002年東京大学工学部建築学科卒業／2004年同大学大学院修士課程終了／2005年成瀬友梨建築設計事務所設立／2007年～成瀬・猪熊建築設計事務所／2008年～東京理科大学非常勤講師／2009年～東京大学特任助教



ラグジュアリー・モバイルフォンのVERTUの旗艦店。1階内部より前面道路を見る。センターディスプレイ上、ガラスショーケース内のLED照明はゴールドやシルバーといった商品に合わせて色温度が調整されている。両側のフィーチャーウォールはウレタン塗装鏡面仕上げ。

商品ひとつひとつを照らす

アストリッド・クライン(以下、クライン) VERTUの端末はゴールドやシルバーなどの高価な素材を使い、手作業によってできています。洗練、シャープといったブランドイメージを守り、それにふさわしいお店をつくらうと思いました。たとえば、上質なものを求める顧客に対しては、何かマジックのような仕掛けがほしい。そこで、展示ケースからカギ穴をなくし、非接触型のカードでセキュリティが解除できるようにしました。非接触型にしたことで金物も見えなくなり、ディテールもすっきりしました。

鈴野浩一(以下、鈴野) 普段、ラグジュアリーや高級感といったテイストを専門にされているわけではないのに、VERTUのような高級ブランドに対して、マジックというアイデアのおもしろさやユニークさがうまくフィットしていてすごいと思いました。高級な携帯電話という他にはないカテゴリーですから、難しかったのではないのでしょうか。

クライン そうですね。ダイヤモンドやゴールド、シルバーなどの素材に光を当てると、印象が変わってしまうことがあり、照明の扱い方は特に難しかっ

たのです。ダイヤモンドには白色に近い光を、ゴールドにはもう少し柔らかい暖色系の光を当てるなど工夫しました。また、携帯電話の端末をいかに小さく見えないようにするかも考えました。ひとつひとつの端末に丁寧に照明を当て、展示されていないスペースの照明を細かく消せるようにすることで、展示されている商品が引き立つようになっています。

調節の難しさ

マーク・ダイサム(以下、ダイサム) 今回のような場合には、今までは光ファイバーを使うことが多かったと思います。ただ、熱の問題がありますし、光源も劣化していきます。

クライン 光ファイバーだと色温度が調整できず、またゴールドの商品を思うように照らせなかったため、LEDを使うことにしました。ひとつずつバランスを取り、角度や色温度をチェックしながら進めました。空間にメリハリをつけ、携帯だけが目立つようにしたかったのです。ただ、商品を見る人の身長も違いますし、人は動きながら見るので、最適な照明配置を探るのには時間がかかりました。

VERTU GINZA FLAGSHIP STORE

所在地 東京都中央区
主要用途 店舗
設計 クライン ダイサム アーキテクト
階数 地上4階
掲載 本誌0905



店舗は築20年のテナントビルを改修してつくられた。VERTUのブランドカラーである黒を基調にしながら、内部が暗く見えないようにしている。



フィーチャーウォールは非接触型のカードによって開閉され、表からは金具が見えないようになっている。照明は個別に点灯でき、商品が展示されていない部分の照明は消されている。

成瀬友梨(以下、成瀬) 以前、バッグの店舗を設計した時に、初めて商品にきちんと光が当たるように照明計画をしました。でも、実際に営業を始めるとバッグも人も動いてしまいます。バッグの大きさはさまざまですし、季節によって素材も重たいものから軽いものまで、光沢のあるものからないものまで、いろいろ変化するので、常に照明をベストな状態に保つことの難しさを感じました。「VERTU GINZA FLAGSHIP STORE」では端末を照らす照明ひとつひとつを、スイッチでオンオフできるというような細かい設定がされていますし、素材に合わせて照明の色温度も設定されていて、店舗の照明としては理想的な形だと思いました。

演出感を見せない

中村竜治(以下、中村) 私は「お店っぽさ」という



2階のプライベートラウンジのコンサルテーションテーブルの前で説明を受けるメンバー。赤い壁は本革仕上げ。ガラスショーケース内の商品はLED照明によって際立つように設計されている。

ことがずっと気になっています。お店の設計をする際に、たくさん見て回ったことがあるのですが、どんなお店にも共通する「なんとも言いえない感じ」がありました。それは分かりやすく言うと「演出された感じ」ではないかと思いますが、その演出というものに大きな役割を果たしているのが照明です。お店なので演出するという行為は必要不可欠なかもしれませんが、同時にわざとらしさのようなマイナスの影響を与えてしまう場合があり、それをなんとかできないかと思っています。

クライン 個人的には間接照明があまり好きではありません。いかにも演出したような雰囲気になってしまい、あまり心地よくない。建築の基本的な光の操作ではないので、すごく気になります。中村 そうですね。元もと大きな演出効果を持つ照明というものを使いながらもそういう感じを

消していくのはある意味矛盾する行為です。だから、明るくなりすぎてしまったり、暗くなりすぎてしまったりという失敗を繰り返したこともありました。

「体験」できる空間に

クライン みんなお店というものに飽きているのではないのでしょうか。今はインターネットで何でも買える時代です。だからこそ、何のためにお店に行くのかを考えなければいけません。私は「体験」が重要になってきていると思います。お金を払って物を手に入れるだけではなく、たとえばギャラリーに行くように心が豊かになるような体験を求めているのではないのでしょうか。だから、単に物と販売する機能があるだけではなく、印象に残るような体験ができる空間をつくりたいと思っています。



「TBWAHAKUHODO」。ボーリング場からオフィスへのコンバージョン。オープンスペース(手前)とワークスペース(奥)が一体となった大空間で、ところどころにシェルターが配置されている。デッキ材のボードウォークとイントアグリーン、天井から降り注ぐフラットな照明により、屋外のような雰囲気をつくっている。



照明は梁の両側に配置し、反射する光によって空間がより明るく感じられるようにしている。照明横に空調吹き出し。



シェルター内部から見る。左手奥の大階段はロビーへと続く。シェルター内のダウンライトは傾斜した壁面も柔らかく照らす。奥の開口部からは自然光が入り、外部との繋がりを感じさせる。



コーポレートカラーを印象づけるロビー空間。オフィス全体を見渡すことができる。 撮影：新建築社写真部

TBWAHAKUHODO
所在地 東京都港区
主要用途 オフィス
設計 クライン ダイサム アーキテック
掲載 本誌0704

遊びに行きたくなるオフィス

クライン 「TBWAHAKUHODO」はボーリング場だったところをオフィスにコンバージョンしました。できるだけ自然光が入るように大きな開口を設けて、時間の移ろいを感じられるようにしています。また、既存の梁に沿って照明を配置し、梁の影が出ないようにしました。ボーリング場だったところですので、無柱の大空間になっており、その分、梁が大きくなっています。ある意味、何でもできる状態だったので、そこが逆に難しかったです。

鈴野 以前、仕事で伺ったことがあるのですが、この場所を発見されて、クライアントに提示したダイサムさんがすごいと思いました。上階から入って全体を見下ろせる、入ってきた時の高揚感がとてもよいですね。

成瀬 写真で拝見した時は、グリーンカーペットやデッキ材、大きな木が点在していることなどから、きっと外のような空間をイメージされた設計だと想像していました。実際に大階段の上からオフィスにアプローチする時、明るい、にぎやかな谷の中に分け入っていくような印象を受けました。デスクが凝縮されて並んでいる場所と、テーブルがばらばらと置いてあるデッキのスペースと、密度の

差が明快で、さらにそれらを緩くエリア分けするようにシェルターが配置されています。それぞれのエリアで照明に気がつけたことはありませんか。

クライン 真上がボーリング場で、遮音の役割も必要のため、あまり天井に穴を空けないように照明を配置しています。オフィスというよりも、公園をイメージして、遊びに来たくなるようなところにしたと思います。豆腐のような形のシェルターは壁面を斜めにして、そこに光が当たり、明るく見えるようにしています。

成瀬 プランターにも照明が仕込んであり、そういう細かいところの照明も屋外を意識されているのだと思いました。

照明で自然に近い光環境を

久山幸成(以下、久山) 意識的に天井だけはフラットな照明にしている、照明器具が見えず、照明を意識させないようにしています。光天井や、間接照明を使うことも検討しましたが、それだと照明を多く使わないと暗くなってしまうため、梁に蛍光灯の光を当てて明るさを出し、シェルターにも光が入るようにして、最終的に現在の形になりました。

中村 照明が当たる部分の形がちょっと膨らん

でいたり斜めになっていたりすることで、そこに光がどう反射するのかまで考えられていますね。形が独立してあるのではなく、光との関係で考えられているのがよいな、と思いました。

久山 私たちはオフィスを設計することもよくあり、そうした時には自然光に近い光環境を目指すことが多いです。そういう時、外の光と照明を連動させられたらおもしろいと思います。電球自体も自然光のように、昼は白く爽やかな光になって、夕方ほっと温かい感じの色に変わるようになれば、より心地のよい環境がつけれると思いますし、お店の場合もシーズンごとに光の色が変えられるようになればもっと柔軟に照明で雰囲気を変えられますね。

住宅のような心地よさ

クライン 均一な照明よりも、人がいるところに照明がついていて、いないところでは消えている方がメリハリがついて心地よいと感じます。照明も、暖色から寒色、ダウンライトからペンダントライトまで、できるだけいろいろなものがあって、それらの差が対照的に出ているものが好きです。そうすれば両方きれいに感じられると思います。

鈴野 そうですね。私が照明計画を行う時は、

この連載は、(社)日本建築士会連合会の継続能力開発(CPD)の「自習型認定研修」教材として認定されました。2009年11月号の第1回から本号(隔月連載)の計3回で1単位を取得できます。設問に回答後、バーコードを切り取ってCPD手帳に貼り、所属建築士会にてデータ登録してください。CPD制度の詳細は、<http://www.kenchikushikai.or.jp/>にて。

100301100004699901
月刊『新建築』建築照明探検隊—空間と照明のデザイン—
2010/03/01 (株)新建築社
単位:1
問1 a b c 問2 a b c
問3 a b c (正解を○で囲む)

自習型認定教材
問1 ビルの頂部にLED照明を使用しているものはどれか。
a. パシフィックセンチュリープレイス丸の内 b. グラントウキョウ ノースタワー c. TK南青山ビル
問2 「TARO NASU」の照明施工後にかかった調整期間はどれか。
a. 約1カ月 b. 約2カ月 c. 約3カ月
問3 「VERTU GINZA FLAGSHIP STORE」で使用している照明はどれか。
a. 有機EL b. 光ファイバー c. LED

自然光の扱いをまず考え、その後で人工照明を考えるのですが、自然光の場合は移り変わりがあって、それをどう取り入れるかというきっかけがあります。しかし、人工照明の場合、なるべく照明を隠したいという思いが強く、きっかけがなかなかつかめない。それでも夜は照明が必要なので、自然光を考えた後で、照明をどうしようかいつも悩みます。

クライン お店らしいお店や、オフィスらしいオフィスではなく、住宅のようなもっと心地のよい空間が作りたいたいですね。

「Feu」の活用法

クライン 照明によってある雰囲気をつくろうとする時、それをライティングデザイナーに正確に伝えるのはとても難しいと感じています。同じ照明でも、空間に使われている素材の色、ツヤ、反射などで全然違うものになります。

成瀬 照明は実際に行ってみないと分からないことが多いので、実物を見て体験を蓄積させることが大切だと思っています。たとえばどこかの建物のエントランスのような照明とか明るさ、というように具体的に言うことができると、クライアントやライティングデザイナーとの意思疎通も図りやすいのかな、と思います。

久山 空間の明るさ感を予測するFeu*という指標があるのを伺いました。建築の設計の中でも一

番説明が難しいのが照明で、全体の雰囲気を伝える手法があればよいと常々思っていました。たとえば、照度は適合していても暗いということや、人が感じる明るさ感を数値で表現できれば、有効な手段になると思います。

クライン 建築照明の場合、単体の照明器具を持っていてもクライアントには明るさが伝わらないことが多いですが、そういう時にFeuは説明の手がかりとして使えるのでしょうか。また、実際にはどのような状況でFeu値を活用できますか。

編集部 今まで壁に照明を当てると空間が明るくなるといったことが経験的に分かっていたと思います。こうした空間の明るさ感を予測し、数値で表現できるのがFeuの特徴です。たとえば、リノベーションの前後で数値を比較して、実質照度は抑えながらFeuを維持することで省エネに使えます。

これからの建築照明

鈴野 LED照明を既存の光源の代替ではなく、新しい光源ならではの新しい手法として使ってみようと思っています。建築、インテリアを考えてから照明を考えるのではなく、新しい光源だからこそできる空間を照明からの発想で考えてみたいですね。

中村 街はどんどんインテリア化しているので、夜だけではなく昼も照明の必要性は増していくと

思います。しかし、昼間の時間帯には電気を使って明るくするのではなく、太陽光をどうやって複雑に入り組んだ内部まで届かせるのかといったことが考えられればと思います。また、照明メーカーには、電気を使わない、あるいは、配線のない照明器具をつくってもらいたいなと思います。

成瀬 照明器具を選ぶ際に、環境に配慮しているかどうかをとても気にするようになってきました。一方、以前ならそのデザインが好きだからという理由で選べたものが、そうもいかないという状況もあります。たとえば裸電球が天井からぶら下がっているだけの器具を見るとよいなと思うのは、正直なあり方というか、光とそれを発する「もの」が一致している感じが強いからだと思います。これから環境配慮型の器具がますます増えていくと思うのですが、裸電球のように光と電球の素直な関係が見える器具がもっと出てくるとよいなと思います。

ダイサム 物として考えると、照明器具が小さくなれば、材料や輸送費、倉庫などいろいろなコストが下がって、ライフサイクルコストが小さくなるでしょう。最近、LEDが進歩してかなり薄くなったように感じます。近い将来、貼るだけで設置できるようになるかもしれませんね。LEDによって照明の寿命が延びただけでも大きな変化でしたが、照明の色や使い方など、これから大きく変わると思います。(2010年1月19日 文責：本誌編集部)

*本連載は、「パナソニック電工株式会社」の取材協力のもとに、建築照明業界における最新情報の発信を目的としてお送りしています。

***Feuとは**
従来の照度設計だけでは評価しきれないこともあった空間の明るさ感を精度よく予測するパナソニック電工が提唱する評価指標。空間観察時の視野に存在する天井、壁、床から眼に入ってくる光を総合的に捉えており、これを用いることでより定量的な照明設計が可能になる。また、床面照度 (lx) などの他指標と併用することで、より精度の高い、過剰な明るさをおさえたいプランニングができる。

パナソニック電工ではこの「Feu」を活用した照明設計を実現する建築照明シリーズを「SmartArchi」として展開。詳細は下記「SmartArchi」Webサイトへ、<http://denko.panasonic.biz/Ebox/smartarchi/>